次世代NW（SDCC ONWv4）マイグレーション説明会

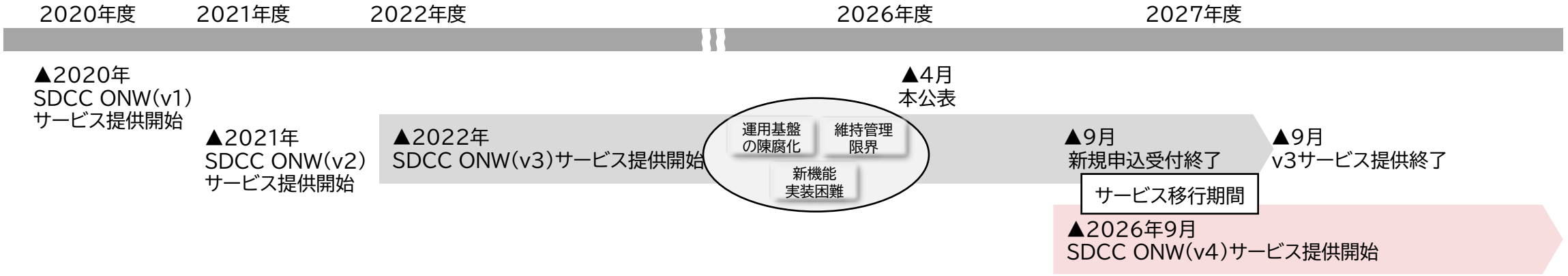
島根データセンター友の会
会運営本部 企画総務部
SDCC ONW本部 サービス開発部
データセンター本部 サービス開発部

SDCC ONWv3提供終了について

○ SDCC ONWは2020年から運用を開始した実験NWであり、現在運用中のネットワークであるSDCC ONWv3は2022年から運用を開始しました
○ 装置の保守限界を迎えることや、現構成では新規要件・高度化要請に仕様上応えられないことから、2027年9月にSDCC ONWv3のサービスを終了します
○ なお、後継サービスとして同等程度の機能を具備し、かつEVPN/VXLANをベースとした拡張性の高いサービスをSDCC ONWv4として2026年9月よりサービス提供開始します

■SDCC ONWサービスに関する線表(予定)

SDCC ONWv3は、運用装置の保守限界到来に加え、新規要件及び高度化要請に対し仕様上対応し得ない等の制約が顕在化しています
これを踏まえ、2027年9月をもってSDCC ONWv3のサービスを終了するとともに、同等の機能を具備しEVPN／VXLANを基盤とする高い拡張性を有する後継サービスSDCC ONWv4を2026年9月より提供開始します。
なお、これに伴い2026年8月末をもってSDCC ONWv3の新規申込受付を終了します



■SDCC ONWv3サービス終了・v4サービス開始に関するスケジュール

下記の通り各種サービスの申込終了・サービス終了・開始スケジュールを公表します

SDCC ONWv3申込受付終了日	2026年8月31日
SDCC ONWv3サービス終了日	2027年9月1日
SDCC ONWv4サービス開始日	2026年9月1日

マイグレーションに伴う機能差分について

○ SDCC ONWv3とv4の機能において、移行に伴う技術課題の発生を最小限にするため、可能な限り既存機能と同等の機能を具備するものとしています
○ ただし、技術的に解決不可能な仕様変更については、機能差分としてあらかじめ公表します

■SDCC ONWv3で提供している主要なサービスと機能差分 ※機能差分は赤字で記載

後継サービスであるSDCC ONWv4は、SDCC ONWv3において提供してきた機能群との連続性を最大限確保することを基本方針とし、利用者の利便性及び運用継続性に影響を及ぼす機能差分が極力生じないよう設計・構築を行います
具体的には、現行サービスにおける主要機能について同等性を担保するとともに、既存利用環境からの円滑な移行を可能とすることを重視します
これにより、サービス更改に伴う利用者側の設定変更、運用負荷及び業務影響の最小化を図ります

サービス名称	SDCC ONWv3	SDCC ONWv4
IPトランジットサービス	7拠点の物理的に離れた相互接続点・3拠点の張り出しPOPを備えた 顧客ASN・IPを広報しインターネット接続性を提供するサービス	**4拠点の物理的に離れた相互接続点・7拠点の張り出しPOP**を備えた 顧客ASN・IPを広報しインターネット接続性を提供するサービス
インターネット接続サービス	7拠点の物理的に離れた相互接続点・3拠点の張り出しPOPを備えた 当団体のIPを顧客に割り当て、インターネット接続性を提供するサービス	**4拠点の物理的に離れた相互接続点・7拠点の張り出しPOP**を備えた 当団体のIPを顧客に割り当て、インターネット接続性を提供するサービス
L2VPN	QinQベースの拠点間の専用L2ネットワークサービス	**EVPN/VXLANベース**の拠点間の専用L2ネットワークサービス
L3VPN	MPLSベースの拠点間の専用L3ネットワークサービス	**EVPN/VXLANベース**の拠点間の専用L3ネットワークサービス
仮想マシン提供サービス	4拠点の物理的に離れた仮想基盤（汎用ハイパーバイザベース）の 余剰リソースを仮想マシンとして貸し出すサービス	**2拠点の物理的に離れた仮想基盤（Proxmox）**の余剰リソースを 仮想マシンとして貸し出すサービス

マイグレーションにともなうサービス影響について

○ 本移行に伴い、各サービスにおいて接続構成および提供方式の変更が生じますが、一部サービスについては計画的な移行措置を講じることで、
利用者影響は最小限に抑制可能であると考えております

■マイグレーションに伴い想定されるサービス影響

サービス名称	通信断・ もしくはサービス停止	収容拠点の変更	仕様変更
IPトランジットサービス	既存接続引継ぎができないため、BGPによる制御のみとなります	ご利用になれない拠点があります	ー（影響なし）
インターネット接続サービス	既存接続引継ぎができないため、BGPによる制御のみとなります	ご利用になれない拠点があります	ー（影響なし）
L2VPN	切替時に瞬断が発生します	ー（影響なし）	マルチキャスト通信の最大帯域設定並びに、最大MACアドレス学習数に制限が発生します
L3VPN	切替時に瞬断が発生します	ー（影響なし）	ー（影響なし）
仮想マシン提供サービス	サーバーマイグレーションに伴い、8時間程度のサービス停止が発生します	ご利用になれない拠点があります	ー（影響なし）

凡例　影響度の大きなサービス影響・仕様変更となる箇所
　　軽微なサービス影響・仕様変更となる箇所

SDCC ONWv4のご紹介

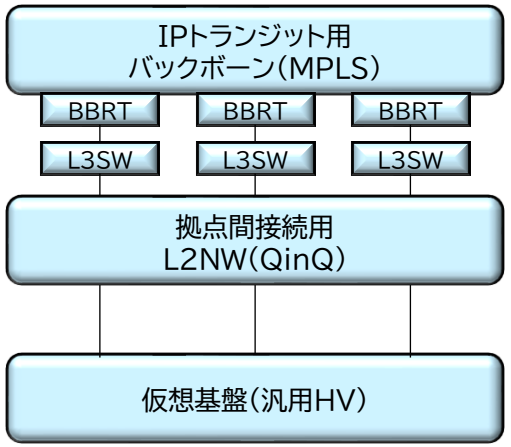
○ SDCC ONWv3はIPトランジット機能を重視したネットワークでした
○ SDCC ONWv4では、NWの高速化とシンプル化を実現。さらに、近年高まっているコンテンツ提供機能需要を満たす高信頼、高性能な仮想基盤を統合的に提供します

MPLSベースのL3 NW機能（IPトランジット機能含）を単独で構築

L3VPNの提供のため、PE装置（L3SW）を設置

各NW構成装置同士を柔軟に接続するため、QinQベースのL2VPN網を構築

SDCC ONWv3構成概念図



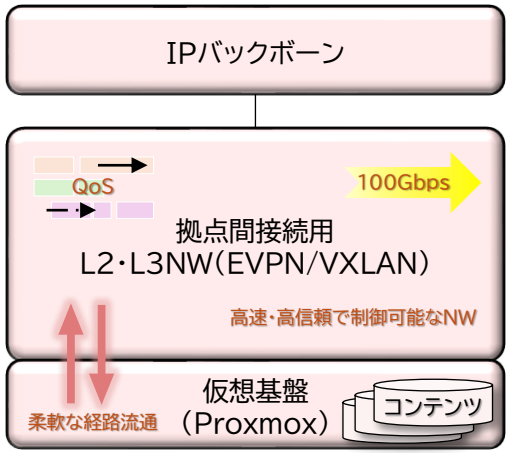
IPトランジット用設備

L3VPN用設備

L2VPN用設備

仮想基盤設備

SDCC ONWv4構成概念図



IPバックボーン機能を独立化し高性能かつシンプルなNWを実現

EVPN/VXLANベースのL2・L3をワンネットワークとして構築

Proxmoxベースの柔軟な仮想基盤を活用し、EVPN/VXLAN網との相互接続機能も具備

SDCC ONWv3の概要

1. 高速・広帯域なIPトランジット網を広くあまねく地域・利用者に提供
2. （1.）を実現するための、拠点間接続機能及び網の管理監視設備の構築

SDCC ONWv4の概要

1. L2・L3区間の帯域を増強するとともに、高信頼で制御可能な統合網の構築
2. IPトランジット機能を維持しつつ、高性能かつシンプル化を実現
3. 高度化するコンテンツ提供需要を満たす高信頼かつNWと接続性の高い仮想基盤を具備

本件に関するご連絡先

IPトランジット・インターネット接続サービスの マイグレーションに関するご連絡先	SDCC ONW本部 サービス開発部 （dev-service-ml@m.sdconw.com）
L2VPN・L3VPNサービスの マイグレーションに関するご連絡先	
仮想マシン提供サービスの マイグレーションに関するご連絡先	データセンター本部 サービス開発部 （dev-service-docml@m.sdconw.com）
その他マイグレーション全般に関するご連絡先	会運営本部 企画総務部 （contact@m.sdconw.com）